サッカー競技における戦術についての研究

渥美　修斗　（競技スポーツ学科　スポーツ情報戦略コース）
指導教員　望月　聡

キーワード：　サッカー，守備戦術，背後のスペース，ボール奪取

1. 緒言

今日のワールドサッカーは,「プレッシング・フットボール」と呼ばれる高度に組織化されたサッカーが主流となっており, 攻守の切り替えの速さと多くの運動量とスピードのある動きが必要とされる. まさにボールを奪い取る, 奪い返すといったプレスの応酬, 守備範囲をコンパクトにし, 狭いエリアに大きなプレッシングをかけることが今日のサッカーに不可欠な守備のチーム戦術である.（崔ほか. 2008）

そこで本研究は, 昨年度の本学サッカー部トップチームは関西学生サッカーリーグにおいて 2 位という好成績を残した去年のチームと残留争いの結果なんとか 8 位という結果でリーグ戦を終えた今年のチームの守備戦術においての違いを失点シーンやボール奪取位置などから分析し, 来年度以降より良い守備戦術を行えるようにすることを目的とする.

2. 研究方法

関西学生サッカーリーグ 2014･2015 から全 44 試合計 70 失点の映像を使用し分析する. その中からセットプレー, サイド突破, 中央突破, 背後のスペースなど失点のパターンを調べ, 去年と今年のチームとしての守備の仕方の違いや，失点の原因となるポイントを分析する.

またグラウンドを 12 分割し，何処で相手のボールを奪取したのかカウント行う.
勝ち，負け，分けの 3 試合，計 6 試合で行う.

3. 結果と考察

2014 年と 2015 年において失点数はさほど変わらないものの, 圧倒的な得点数の違いが見られた. 去年の失点パターンの中で背後のスペースを取られて失点している数が 2 倍となっている. その理由として、去年は前線から積極的にプレスを行っているからこそ増えたのだと考えた.

位置別によるボール奪取数の結果, 相手の陣地でボールを奪取した数が去年と今年で 3 試合ずつを分析したところ,59 回もの差が出た.

これだけ相手の陣地でボール奪取が出来ていれば，その数だけチャンスも増え，得点となり,勝利を積み重ねることができたということが分かった.

4. まとめ

本研究の結果, 前線からプレスをかけることの有効性を分析の結果から実証することが出来た. このため前線から積極的に連動した守備を行うことが勝利するには重要となる.

前線から守備に行くためには攻撃時にラインを押し上げ,如何に前線に人数をかけ攻撃から守備に切り替えられるかが大切となる.

引用・参考文献

・崔　恩郎　(2008)　サッカーにおける守備戦術の変遷について　仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集 9，67−74